

地域の資源を活かし、育み、「水」「土」「里」の未来を拓く

秋田の山

あきたのとちかいりょう

土地改良



VOL. 528
2024
1.15 [Mon]

イメージキャラクター
みどりちゃん



謹賀新年

「役目は終わった」 撮影者/菊地 一男

表紙の写真は、第23回「あきたの美しく豊かな農村づくり」写真コンクールにおいて「優良賞」を受賞した作品です。水田に見立てた雪の上に稲わらや豆がらを混ぜた「苗」を植え、1年の作柄を占う行事、「雪中田植え」を終えたところを撮影した1枚となっています。

さて、今年の写真コンクールも皆さまから沢山のご応募をいただきありがとうございました。なお結果については、2月に審査会を行った後、ホームページや本会報誌にてお知らせいたします。

目次

CONTENTS

新年挨拶		令和5年度土地改良関係団体役員講習会を開催	10
・ 本会会長【高貝久遠】	2	令和5年度資格試験 本会職員の合格者について	10
・ 秋田県知事【佐竹敬久】	3	「未来へつなごう！ふるさとの水土里子ども絵画展2023」審査結果について	11
・ 全国土地改良事業団体連合会会長【二階俊博】	4	会員だより	11
・ 全国水土里ネット会長会議顧問、参議院議員【進藤金日子】	5	連合会日誌	11
・ 全国水土里ネット会長会議顧問、参議院議員【宮崎雅夫】	6	謹賀新年（新年挨拶）	12
秋田県多面的機能支援協議会の活動紹介	7	本会第66回通常総会開催予定	12
令和6年度農業農村整備事業関係予算	8	編集後記	12

新年のごあいさつ



秋田県土地改良事業団体連合会
(水土里ネット秋田)

会長 高貝 久遠

初春を迎え、皆様に謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

皆様には平素より農業農村整備事業の推進に多大なる御尽力をいただくとともに、本会の運営に特段の御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

始めに、新年早々に発生した令和6年能登半島地震でお亡くなりになられた方の御冥福を衷心よりお祈り申し上げますとともに、その御家族や被災された皆様に、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。また、被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、6月の日照不足に加え、7月には記録史上最大規模となった豪雨災害、さらには8月の記録的な猛暑など、相次ぐ気象災害で農産物は大きな被害を受けました。また、肥料や燃料など生産コストの高騰分が農産物価格へ十分に転嫁されておらず、農業経営は厳しい状況が続いております。

こうした厳しい情勢を背景として、近年、国内の食料生産が不安定になっていることに加え、世界的な食料需要の増加などにより、食料の安定供給に対する不安が高まっています。

農業が国民生活に必要な食料を安定的に供給していくためには、今後とも農業生産基盤の整備を計画的に進め、スマート技術の導入等による生産性の向上や需要に応じた農産物の生産基盤の整備を促進するとともに、ICTなどを活用した農業水利施設の適切な保全管理により自然災害の防止や軽減を図っていくことが重要です。

本会では、こうした事業の適正かつ円滑な実施に向けて、地域の実情や要望等に的確に対応しながら、スマート技術等を取り入れた最先端の生産基盤の整備を支援してまいります。

また、農業農村整備事業の推進母体である水土里ネットの果たすべき役割は年々多様化していることから、多様な人材が活躍できる運営体制の実現に向けて、引き続き男女共同参画の推進を支援してまいります。

国の農業農村整備関係予算については、令和6年度当初予算案は4,463億円で閣議決定していただき、令和5年度補正予算と合わせると6,240億円となり、令和5年度を上回る予算額が確保される見込みです。本会では、今後とも安定した予算確保に向けて、積極的に要請活動を展開してまいりますので、引き続き皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

水土里ネット秋田は、農業農村整備事業の調査・計画から完成までの総合的支援団体として、国内外の情勢の変化に負けない「強い農業・農村」の実現に向けて、役職員一同、全力で業務に取り組んでまいりますので、本年も変わらぬ御支援と御愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この一年が皆様にとりまして、実り多き素晴らしい年となりますように心から御祈念申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

年頭のごあいさつ



秋田県知事
佐竹 敬久

水土里ネット秋田の会員の皆様に、謹んで年頭のごあいさつを申し上げます。

始めに、令和6年能登半島地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。県としましても、被災地の一日も早い復旧に向け、必要な支援を行ってまいります。

昨年を振り返りますと、本県では7月に2年連続での記録的な大雨被害に見舞われ、中小河川の氾濫や市街地における内水氾濫によって、多くの家屋の浸水や堤防の決壊等の甚大な被害が発生したほか、広い範囲で農地の冠水や土砂流入が発生し、農地・農業用施設の被害が過去最大となるなど、自然災害の脅威を目の当たりにしたところであります。

県としましても、来春の営農に支障を来さないよう、復旧に向けて全力で支援するとともに、県土強靱化のための農業水利施設の長寿命化対策や、ため池の地震・豪雨対策を引き続き推進してまいります。

さて、農業を取り巻く情勢は、労働力不足や担い手の高齢化、ICT等による急速な技術革新、さらには、国際情勢の緊迫化に伴う食料安全保障リスクの高まりや原油価格・物価の高騰など厳しさを増しており、農業経営に大きな影響を及ぼしております。

このため、県では、肥料・生産資材等の高騰や電気料金の値上げに対し、肥料の使用量低減や作業の効率化・省力化に資する農業機械の導入を支援しているほか、土地改良区に対しては、電気料金の高騰分を助成するなど、農業者に寄り添った対策を講じているところであります。

また、「サキホコレ」を秋田米のフラッグシップとして、40年目の節目を迎える「あきたこまち」等とともに、販路拡大を図るほか、「ねぎ」や「えだまめ」などの園芸作物の単収向上を図り、収益性の高い複合型生産構造への転換を加速させ、全国に名を馳せる産地づくりを目指してまいります。

加えて、人口減少社会の労働力不足を見据え、ICT等の先端技術を活用したスマート農業の導入が重要と考えており、県では新たに「スマート農業を支える基盤整備指針」を策定し、次代へ繋がる基盤整備を推進しているところであります。

このほか、農山村の活性化対策として、地域資源を活かした多様な農業ビジネスの創出や、「半農半X」等の新たな兼業スタイルによる定住の促進を図るなど、笑顔でいきいきと住み続けることの出来る農村地域の実現を目指してまいります。

こうした取組を通じて、本県農業が持続可能な成長産業として発展できるよう、私自身が先頭に立ち、引き続き農業農村整備事業を力強く推進してまいりますので、水土里ネット秋田の会員の皆様におかれましては、より一層のご支援・ご尽力をお願いいたします。

結びとなりますが、本年度の干支である「辰」は古くから水の神として崇められており、県内でも龍神様へ祈願する祭事が各地にあります。新しい年が水害に見舞われず、水の恵みにより五穀豊穡となることを願うとともに、皆様にとりまして希望に満ちた飛躍の年となることをご祈念申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

新年に当たって



全国土地改良事業団体連合会

会長 二階 俊博

令和6年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

本年元日に石川県能登地方を震源とする「令和6年能登半島地震」が発生し、北陸地域を中心に甚大な被害が発生しました。お亡くなりになられた方のご冥福を衷心よりお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

当会も被災地域の日も早い復旧・復興に向けて全力で取り組んでまいりますので、関係各位におかれましてもご支援をお願いいたします。

昨年、国内では新型コロナウイルス禍が一段落する一方、ロシアによるウクライナ侵略に加え、中東においても軍事衝突が起こるなど、国際的な混乱が続く年となりました。

国内においては、農業者の高齢化や減少が進み、農地や農業用水の管理に支障が生じているほか、資材価格と電力料金の高騰が土地改良区の運営を圧迫しています。

このような情勢の中、命を支える食料の確保は、後回しにできない国民ニーズであり、食料安全保障の強化は、国家の最重要課題とされ、食料・農業・農村基本法の見直しにおける大きなテーマとして議論されています。

我々は、食料安全保障の確立の観点からも、食料生産を支える農業生産基盤を維持し、国民の不安を解消していかなければなりません。

令和6年度農業農村整備事業関係予算につきましては、全国の関係者の皆様の熱意ある要請活動の結果、政府予算案において、4,463億円を確保することができました。令和5年度補正予算を含めると昨年度を上回る6,240億円となります。

御尽力いただいた関係各位に心から御礼を申し上げます。

他方、第5次男女共同参画基本計画や土地改良長期計画においても令和7年度までに土地改良区及び土地改良区連合の女性理事の割合を10%以上とすることが成果目標とされており、残された期間は2年余りとなります。

将来の土地改良組織の体制強化・発展のために女性の参画を積極的に進めていかなければなりません。皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

私は、本会の会長に就任以来、「闘う土地改良」を旗印に組織一体となって闘ってまいりました。土地改良の代表として進藤金日子参議院議員、宮崎雅夫参議院議員が「車の両輪」となって、皆さんの声を聞き、現場が直面している課題解決の処方箋を国の政策に反映させるよう奮闘しておられます。皆さんの声を国会に届けるためにも、お二人の活動の支援をお願いいたします。「農業農村の振興」を果たすためには、限りなく闘い続けていかなければなりません。

男女ともに一致団結して、更なる闘いを続けていこうではありませんか。

本年も皆様の地域において更に農業・農村が活力を得て、一層発展しますよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、全国の皆様が日々健やかに過ごされますよう御祈念申し上げます。私の新年の御挨拶といたします。